

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	富士見縄文推進事業
事業主体 (連絡先)	富士見町商工会 諏訪郡富士見町落合 10078-1
事業区分	(1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,188,061 円 (うち支援金 : 3,350,000 円)

事業内容

- ① 縄文フードフェア
9月26日に町内商業者宛てに募集案内を送付。20店舗の参加が集まり、期間限定の縄文フードを創作し、チラシやHPでPRを行った。
- ② 住民参加型非接触型コンテンツの作成 (LINE スタンプの発信)
商工会員、富士見中学校、富士見高校へスタンプ案の募集を募り、LINE スタンプ作成と販売を行った。長野日報でのプレスリリース、HPやfacebookで周知を行った。
- ③ 縄文こども委員会 (縄文についての体験)
・9月24日縄文キッズDAY
貫頭衣づくり、土器づくり、狩猟体験 (アーチェリー体験) を開催した。89名と保護者の参加
- ④ 縄文ハロウィンイベント
・10月20日プレイベント (ジャックオーランタン作り) 町内外の小学生・幼児46名と保護者の参加
・10月22日ホコ天祭り
商店街を12時~17時まで歩行者天国にし、ミニステージや店舗による出店、また商工会からの出し物をした。
- ⑤ イベント情報の発信、映像の集約
縄文フードフェアの店舗の紹介やイベントの開催の告知を発信。また写真・映像で記録し、内容の発信を行なった。
- ⑥ 地域住民“縄文”への意識高揚を図る
9月の後半に井戸尻と縄文ハロウィンのタペストリーとのぼり旗を120本設置した。
信濃境駅周辺、井戸尻考古館、井戸尻遺跡、富士見駅前周辺、富士見駅前商店街、富士見高原リゾート、役場、ゆめ広場、商工会周辺に立て、それぞれ地域住民の皆さんに管理していただいた。
- ⑦ 井戸尻遺跡、縄文を発信している団体の活動周知
井戸尻考古館に協力を仰ぎながら活動をしている内容を集め、1枚のパンフレットにし、富士見町内の小中学校の児童生徒へ配布。また近隣の観光施設への設置を行ない、井戸尻遺跡の周知だけでなく、活動団体を知る機会を作った。



【縄文ハロウィン】

【目標・ねらい】

“縄文” をコンセプトとした取り組みにより

- ① 多世代による地域住民との協働事業により、地域愛を育み、地域力アップを図る。
- ② 商店街に地域コミュニティー機能の向上を図る。

※自己評価【 B 】

【理由】
“縄文” や“井戸尻” を絡めた各事業は2年ぶりとなったが、どのイベントにも大勢の来場者が来て、子ども達も大人も楽しんでおり、盛況でした。
商店街で行った事業も商店街の店舗やそれ以外の出店者も多く出店していただき、大いににぎわい地域コミュニティーの向上が図れた。
前回よりもマンパワー不足が課題となった。協力体制を強化していきたい。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① 縄文フードフェア

町内より 20 店舗の参加があり、前年度より 5 店舗増えた。また HP やチラシ、イベントで PR していく中で、今年もやっていく中で、店舗にとっても新しい商品を作るきっかけやお客様に来ていただくきっかけにもなっている。

② LINE スタンプの発信

中学生、高校生、また商工会の会員からの応募で約 100 人の協力をいただいた。今まで紙ベースでの周知が多かった中で、新しい取組みも出来た。子どもイベントには主に小学生が参加しているため、新たな参加層にも周知が出来たと思う。8 月 29 日にリリースしてから 140 人ほどが購入してくれた。

③ 縄文子ども委員会

縄文についての体験イベントを行った。89 名の子どもとその保護者が来て、それぞれの体験を楽しんでいた。

④ 縄文ハロウィンイベント

- ・ジャックオーランタン作り

50 名以上の参加者が来てくれた。1 つではならず 2 つ作る子どもも居た。

- ・ホコ天祭り

3 年ぶりの歩行者天国にしてのハロウィンイベントでは、多くの来場者があった。コロナ感染拡大により 2 年間中止となったこともあり、大勢の来場者が楽しんでいた。出店店舗も商店街の店舗含め 46 店舗の出店となり賑わいを見せた。子どもだけでなく、大人も楽しみ、町民や町外の人たちが世代を超えた多くの方々のコミュニティーの場の場が設けられた。地域協働だけでなく町興しにも寄与することが期待される。

⑤ ソーシャルメディア等での写真・映像発信

縄文フードのメニューを載せ、新聞を取っていない来ない方々やチラシ配布先でない地域でも見れるようにした。またイベントの周知や実施したイベントの写真をギャラリーにしたり、映像を YouTube でも見れるようにすることで、富士見町のイベントが終わっても周知出来た。

⑥ 縄文や富士見縄文ハロウィンへの意識の高揚を図る

町内を車で走るだけで、「縄文ハロウィンって何だろう?」「井戸尻ってすごいのかな?」と思わせるような感じになる。

⑦ 井戸尻遺跡、縄文を発信している団体の活動周知

富士見町内の活動団体のパンフレットを小中学校や観光施設等 35 カ所に配布した。町内はもとより近隣の考古館や観光案内所にも快くおいていただき目にする機会が出来た。今後の地域の活動やイベントへの集客に期待したい。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

“縄文”や“井戸尻”を絡めた事業を引き続き行い、また他の団体とも協力して協働事業をおこなったり、今まで紙ベースでの周知が多かったが、電子媒体を使用しながら今後も地元地域だけでなく、県内全域、また観光客にも周知をしながら地域文化や歴史を紐解き、地域住民が地元愛や誇りを持って取り組める環境づくりをしていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある